

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和3年4月20日 第139号

皆川城址に登ってきました

「道路から見えた気になるところに行ってみたシリーズ」第2弾です。佐野市の犬伏から栃木市に抜ける県道 75 号線を走っていると、住宅が増え始めた辺りで左前はるか上方に櫓(やぐら)が見えます。地名は「皆川城内町」とそのまんまです。桜の木が植わっていることは知っていましたので、花見を兼ねて登ってきました。

現在栃木市の公園になっているので道は整備されているのですが、かなり勾配が急なため



詳細に解説された案内板があります。

息が切れます。戦国時代に戦いが近くなった時には、兵糧などを上げていたのでしょうか、本当に大変だったと思います。駐車場から頂上までは約 60 mの標高差があります。地面は土というよりも砂礫が多い印象ですので、勾配が急なことも併せて飲み水をどうしていたのかが気になります。とても井戸があるようには見えません。

頂上の櫓からは周囲がよく見えます。当時も 360° 丸見えで、良い前哨陣地だったのではないのでしょうか。

現在見えるものは、多くのゴルフコースと産業用太陽光発電のパネルです。川沿いの桜並木もよく見えました。県道を走っているだけでは見落としがちな場所でしたから、少し得した気分になりました。



太陽光パネルが目立ちます。



間引き済みです。

我が家の畑

庭に作った防虫シートのトンネルは、さつそく効果を発揮しています。シートを掛けていない時には、双葉の頃から虫に食われて、大根の列が歯抜けになっていましたが今回は綺麗に揃って成長しています。トウモロコシも順調です。最近ちよつと涼しい日が多いので、もう少し晴れてくれると嬉しいのですが。畑のジャガイモも芽を出しています。今年も種芋を逆さに植えたので、芽かきの手間が少し減りそうです。

コロナ禍におけるキャリア観・仕事観の変化

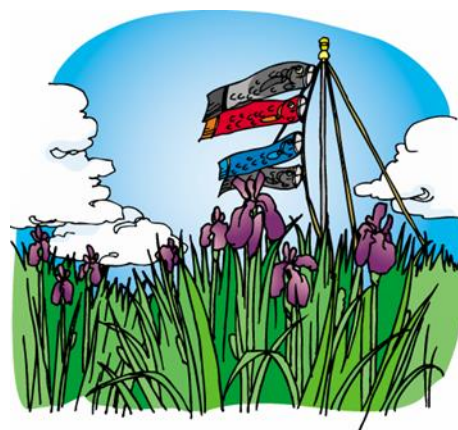
新型コロナの流行は雇用環境にも大きな影響を与え、それをきっかけに自身のキャリアを見直した人も少なくないようです。昨年春に転職サイト「ビズリーチ」の会員を対象に実施したアンケート調査によると、「新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、自身のキャリア観に変化があった」との回答が約6割に上っています。また、そのうち9割以上が「企業に依存せずに、自律的にキャリア形成する必要がある」と回答しており、就業者のキャリア意識はコロナ禍において変化していることが読み取れます。

日本は企業の能力開発費（Off-JT費用）が欧米の国に比べて大分低いといわれます。働く側も自身のキャリアを意識する人がまだ少ないともいえますが、経済のグローバル化、IT化、働く人の価値観の多様化、また、今回のコロナ禍における就業環境の変化の中で、労働者の意識も変化し、個人のキャリア形成に対する取組みは今後ますます求められていくでしょう。

最近では「副業」「フリーランス」「FIRE(経済的に自立し、早期リタイアを実現する)」などの言葉が一般的になりました。従来の「会社員としての収入だけで生活を営むのが当

たり前」という考え方がもはや通用しなくなってきました。

今回のコロナ禍によって時代が進むスピードが一気に速まったと言われます。テレワークの導入など、政府がいくら旗を振っても反応が全く無かったのに、昨年春先だけではありましたが、東京の大企業では一斉に普及が進みました。



人材派遣大手の株式会社パソナグループが、本社を淡路島に移転したり、数社の上場企業が東京の本社ビル売却を決断したりと、かつては予想もしなかったことが起こっています。給与の多少よりも、転勤、残業がないことが第一の条件という若い人もいます。

「地方だから中小企業だから、どうせうちには優秀な人は来ない」という声を多く聞きます。しかしそんな今までの常識はもう当てはまらないかもしれません。優秀な人を受け入れる準備を始めるタイミングではないでしょうか。